

謹賀新年 2014



祝 硬式野球部 吉田裕太捕手(法学部) 千葉ロッテマリーンズ 2位指名・入団

2013.11.2~3 『ホームカミングデー in 橘花祭』を開催

校友会奨励賞 卒業生 井上雄太さん(経済学部卒業) が受賞

台風18号突風災害被災在学学生支援見舞金を校友会より給付

その発展の道程は平坦なものばかりではありませんでした。 本学が財政危機にあった1952年、日本のケインズと称されました石橋湛山先生をお招きしました。湛山先生は、日本国が敗戦に打ちひしがれ絶望していた1945年に、真骨頂ともいえる論説(更生日本の門出)前途は美に洋々たり(『東洋経済新報』昭和20年8月25日号)を発表され、そこでは日本は科学精神に徹底し、世界平和の戦士として全力を尽くせば未来は明るいとの見通しを述べられております。そして、1961年に立正大学長として、本学の建学の精神(「真実を求め至誠を捧げよう・正義を尊び邪悪を除こう・和平を願う人類に尽くそう」)を掲げました。

本学の中興の祖である湛山先生の下で、仏教学部・文学部という「人文科学系の学問分野」に止まらず、経済・経営・法学などの「社会科学系の学問分野」へと裾野を広げる基盤が整備され、「人間」から「社会」へと、い

ち早く文科系総合大学への道程を進めることになりました。現在は、社会学部、地球環境科学部、そして心理学部を加え8学部15学科・7研究科で構成される「人間・社会・地球に関する総合大学」へと発展してきました。

このように総合大学への道を進ってきた本学において、必然的に教育・学問の根幹となるのは、「人間」を視座の中心に置くということ。「人間」を基点に、「人間と人間の関係」、日本に止まらない重層化したネットワークで繋がった「社会や組織」、そして「国々」、さらに「グローバルな世界地球全体」へと学問体系が形成されていきます。

2014年を迎え、湛山先生の思想や行動を踏まえ、「一人ひとりかけがえない存在である人々が、将来への希望を抱きながら文化を継承し、持続可能な社会を構築していくために」連携していけるような価値観の創出に努めつつ、改めて「建学の精神」の解釈を説いていくことが、本学の責務であるうかと思っております。

本学の使命は、「真実・正義・平和を願う『変わらない立正精神』と「時代の潮流を踏まえた『変わる柔軟性』」を兼ね備えた、人類社会の発展に貢献する人材の輩出の一翼を担っていくことにあります。誰にも止められない時代の潮流がありますが、「変えることの出来る勇気や柔軟性」と「変えることの出来ないものを受け入れる

冷静さ」そして「両者を識別できる「知識や知恵」が大切だと思います。「組織体の変革」とは「思考方法の変革」でもあります。8学部15学科、7研究科を擁する「人間・社会・地球に関する総合大学」として、建学の精神に裏付けられたアイデンティティの構築と、社会連携・地域連携の展開のための研究視座や方法論の構築を目指した学問の総合化や融合化と、その実践への取り組みに本腰を入れていきたいと考えております。その研究視座や方法論を表すための用語が「ケアロロジー(Care) + (Logic)」です。

2011年に起こった東日本大震災時の福島原発事故のような深刻な問題は、合目的を追求する視点のみでは解決は難しいのです。これからは「人間・社会・地球」の関係性を基にした世界観の下で、合目的性を踏まえつつ、同時に適度な統一感と適度な差異を尊重し、自律性を有した多様な人々がそれぞれの個別的知識の蓄積にとどまらず、世界的・地球的規模の課題に協働(コラボレーション)して挑戦していく知恵づくりが肝要だと思っております。

ネットワーク社会の利点を活かし、多様な人々と連携しながら学問の総合化・融合化を志向し、世界的な課題に挑戦していく知恵、いわゆる集合知を動かしていく時代が到来したのではないかと思います。まさに「協働・共創社会」における研究視座や問題解決の方法論が求められております。

重要なのは、個々の要素を分析するに止まらず、相互の関係性に着目し、その「関係性」を修復(ケア)できるような学際的・複眼的なアプローチをすることではないでしょうか。

その意味でも立正大学のこれからのもう一段の飛躍を目指した、10万人を超えた立正人のネットワーク(「オーラル立正」)創りを目指した校友会活動に、ご理解とご協力をいただければ幸いです。

井上さんは、在学中に「全日本極真空手道選手権大会準優勝」、「全世界極真空手道選手権大会3位」などの成績を残しています。また、さる6月23日(日)に代々木体育館で行われた「極真館全世界真空手道選手権大会」の型競技の日本代表選手として出場し、優勝をおさめました。

今回の活躍に対し、校友としての主体的精神的研鑽によって立正大学の名を広く世間に知らしめ、校友を元気づけ、校友会活動活性化に大きく貢献したことに對し、校友会奨励賞の授与となりました。

授与式は、11月2日(土)の橘花祭開会式後に行われました。

冷静さ」そして「両者を識別できる「知識や知恵」が大切だと思います。「組織体の変革」とは「思考方法の変革」でもあります。8学部15学科、7研究科を擁する「人間・社会・地球に関する総合大学」として、建学の精神に裏付けられたアイデンティティの構築と、社会連携・地域連携の展開のための研究視座や方法論の構築を目指した学問の総合化や融合化と、その実践への取り組みに本腰を入れていきたいと考えております。その研究視座や方法論を表すための用語が「ケアロロジー(Care) + (Logic)」です。

2011年に起こった東日本大震災時の福島原発事故のような深刻な問題は、合目的を追求する視点のみでは解決は難しいのです。これからは「人間・社会・地球」の関係性を基にした世界観の下で、合目的性を踏まえつつ、同時に適度な統一感と適度な差異を尊重し、自律性を有した多様な人々がそれぞれの個別的知識の蓄積にとどまらず、世界的・地球的規模の課題に協働(コラボレーション)して挑戦していく知恵づくりが肝要だと思っております。

ネットワーク社会の利点を活かし、多様な人々と連携しながら学問の総合化・融合化を志向し、世界的な課題に挑戦していく知恵、いわゆる集合知を動かしていく時代が到来したのではないかと思います。まさに「協働・共創社会」における研究視座や問題解決の方法論が求められております。

重要なのは、個々の要素を分析するに止まらず、相互の関係性に着目し、その「関係性」を修復(ケア)できるような学際的・複眼的なアプローチをすることではないでしょうか。

井上さんは、在学中に「全日本極真空手道選手権大会準優勝」、「全世界極真空手道選手権大会3位」などの成績を残しています。また、さる6月23日(日)に代々木体育館で行われた「極真館全世界真空手道選手権大会」の型競技の日本代表選手として出場し、優勝をおさめました。

今回の活躍に対し、校友としての主体的精神的研鑽によって立正大学の名を広く世間に知らしめ、校友を元気づけ、校友会活動活性化に大きく貢献したことに對し、校友会奨励賞の授与となりました。

授与式は、11月2日(土)の橘花祭開会式後に行われました。



ソニー生命保険株式会社品川ライフプランナーセンター第4支社様

11月2・3日に大崎キャンパスにて、校友会主催による初めてのホームカミングデーを開催致しました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。



山崎和海学長より賞状を贈られる井上雄太さん

校友会奨励賞 卒業生の井上雄太さん(経済学部卒)に授与(経済学部卒)に授与

井上さんは、在学中に「全日本極真空手道選手権大会準優勝」、「全世界極真空手道選手権大会3位」などの成績を残しています。また、さる6月23日(日)に代々木体育館で行われた「極真館全世界真空手道選手権大会」の型競技の日本代表選手として出場し、優勝をおさめました。

今回の活躍に対し、校友としての主体的精神的研鑽によって立正大学の名を広く世間に知らしめ、校友を元気づけ、校友会活動活性化に大きく貢献したことに對し、校友会奨励賞の授与となりました。

台風18号による突風・竜巻(通学住所被災)の被害にあった学生42名に、校友会より見舞金が給付されました。



吉田麻梨紗さんとモラリス

ウエディングドレス試着後のカメラ撮影の様子



ウエディングドレス試着後のカメラ撮影の様子

東京中小企業家同友会南部協議会様 ウエディングドレスの無料試着会を開催していただき、本学経済学部3年吉田麻梨紗さんがモデルを務めました。また、他にも出店して頂き協力をたまりました。



南房総富浦口イナルホテル様



五反田エンジェルフェイク様(イタリアンレストラン)

立正大学校友会報

たちばな

TACHIBANA

NO.20 2014.1.1

「モラリスト×エキスパート」を育む。

立正大学

立正大学校友会

発行所 ●立正大学校友会
 発行人 ●山崎和海
 編集 ●立正大学学長室校友課
 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
 電話 ●03 (3493) 6673
<http://www.ris.ac.jp> E-mail: alu@ris.ac.jp



アメリカ研修にて(ニューヨーク)



【銀座アスター食品株式会社
本社 営業支援本部 本部長】

内田達也さん

文学部地理学科卒業

社会に貢献できる お客様に必要とされる 企業を目指して

内田達也(うちだ たつや)さん

昭和39(1964)年神奈川県相模原市生まれ。

昭和62年文学部地理学科卒業。昭和62年銀座アスター食品株式会社入社。現在本社 営業支援本部 本部長。在学中は学生保健委員会所属、4年次委員長、本学入試課で半年間アルバイト。妻も文学部英文科卒業。夫婦で立正大学卒業生。社団法人日本産業カウンセラー協会会員、社団法人品川労働基準協会理事。

大学時代の思い出

私が今でも財産だと感じているのは、当時2年間教養課程が総合校舎でしたので、その多感な時期のひととの出会いです。新生学寮という現在のユニデンスの前身の男子学寮で日本全国北は北海道、南は沖縄から集まった仲間とキャンパスの中で集団で暮らしていました。同じ釜の飯を食った仲間とはよく言いますが、30年経った今でも進んだ道は違っても年に数回集まり昔話に花を咲かせております。学業だけでなく、一生付き合える先輩、後輩、仲間と出会えたのが、立正大学に入学してとても良かったと感じております。

一生の伴侶との出会いは学生保健委員会でした。現在、一男一女の子供にも恵まれ、二人とも成人を迎え、一人は社会人、一人は大学生として頑張っております。

文学部地理学科では自然地理学(高村弘毅名誉教授)を専攻し、冬の荒川の水流調査、冬の赤城山の気温調査、草津温泉の源泉調査、浅間大滝の滝の



セミナーでの挨拶

後退、十和田湖、奥入瀬周辺等、地質、水質調査など、その時だから出来たことが数多くあり私の財産です。教職課程での教育実習や教育心理学は、現在勤務しております銀座アスターでも、大変役にたっております。また、学生保健委員会での大学の教授、厚生課の職員方との関係、渉外、健康保険の仕組みなど、後に入社し人事担当になるとその時の知識が大いにプラスになりました。

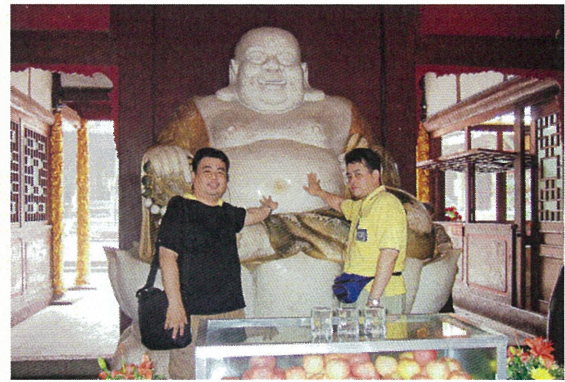
4年次にアルバイトでお世話になりました入試課では、社会人になる基本をたたきこまれて、その時お世話になった方々とは現在も大学との絆を深めていただいている関係を与えていただいております。

外食産業に入社して

私が就職先に選んだのが、創業昭和元年の中国料理の老舗、銀座アスターです。「ありがとう」とお客様に言っていただけの仕事、笑顔で出来る仕事が出来ると思い、入社しました。

入社3年目で店長になり目黒駅前店、忙し銀座南店と2店舗の店長を経験して、本社の人事部に異動し、五反田での勤務が20年以上になり、なにか大学との縁を感じます。

平成9年には産業カウンセラーの資格をとり、社内の採用、教育担当として活かしております。当時、弊社も表では料理やサービスの質を高めて多くのお客様から支持を受けておりますが、企業経営の裏では退職率の高さなど多くの問題を抱えておりました。人事の仕事は、従業員がお客様であるという前提にたち、経営と一体となり、日々改善を重ねて問題を解消してまいりました。完全週休2日制の導入、障害者雇用の雇用率の達成、社員の定着率の向上、有給休暇の取得促進、コンプライアンスを重視する姿勢を常に持ち、労働法規も時代と共に変化しますので



中国研修にて(四川)

たえず時代より半歩進んでお客様や従業員の家族の幸せを考え行動してきました。仕事内容は8年前からは営業中心に移り、大型店舗のスーパーバイザーの仕事や商品企画等多岐にわたっております。年末の中華おせちの販売責任者として、多くの有名百貨店のバイヤーとも懇意にさせていただいております。また、中国四大料理の原典を知るとい意味でも北京、上海、広州、四川と中国には研修で何度も行かせてもらいました。レストランビジネスの本場アメリカのニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルスにも日本フードサービス協会主催の研修に参加させてもらい、見聞を広めて参りました。

今後の取り組み

2011年3月の東日本大震災は私たちに大きな考え方の転機を訴えてくれました。私の会社も社長以下ゼロベースで何事も取り組んでいくという姿勢になり、その時期に営業支援本部の部長になりました。弊社の経営の考えに不易流行という言葉があり、変えてはいけないこと、時代と同じように変化しなければならぬこと、守るべきものと絶えず変化する姿勢を両方持ち、創業以来87年の老舗を永續す



卒業生で登山家竹内洋岳氏を囲んでの銀座アスター宴席

祝 8,000m峰全14座登頂達成
日本人初!! 竹内洋岳さん

る為、今100周年を迎えるメンバーを育成し、採用していくという次世代に繋げることを第一に、また、社会に貢献できるお客様に必要とされる企業としてどうしていけばいいのか、新しい時代、消費税のアップや社会保険料、年金問題など様々なことがありますが、パブル、リーマンショックなど27年間経験したことを活かして頑張っていこうと思っております。

入社した時代55歳定年が現在60歳になり、なおかつ65歳まで雇用継続と変化しております。アメリカは定年制がありませんから、将来は70歳になり、死ぬまで働くかもしれません、会社が好きな自分には幸せな時代かもしれません。

在校生へのメッセージ

学生時代に経験したことが直接社会で活かせるかは、すぐにはわからないと私も思っていました。例えば教育者は学校だけでなく、企業にも必要です。大学で学んだことは一つも無駄にならないと今感じています。人生において無駄な時間や体験はありませんので、今のひととの出会いや経験を大切にして下さい。



2009年に一般向けに出版された「韓国・濟州島と沖縄」(東洋企画印刷)

【沖縄国際大学経済学部准教授】

崎浜 靖さん

大学院文学研究科修士課程修了

「地理好き」から始まった 地理学の 研究者としての道



崎浜靖(さきはま やすし)さん

昭和39(1964)年沖縄県生まれ。沖縄県立名護高等学校卒業。立正大学文学部地理学科卒業、同大学院文学研究科(地理学専攻)修士課程修了、同大学院地球環境科学研究科(地理空間システム学専攻)博士後期課程単位取得。専門は人文地理学・地理教育。沖縄県立高等学校教諭、沖縄国際大学南島文化研究所専任所員を経て、2012年より同大学経済学部准教授。主な著書(共著)に、「日本の地誌 九州・沖縄編」(2012年)、「韓国・濟州島と沖縄」(2009年)、「八重山の地域性」(2007年)などがある。



大学時代の思い出

私は、小学校以来の地理好きが高じて、大学の専攻を迷わず「地理学科」にしました。立正大学地理学科の存在を知ったのは、進研模試の雑誌に、服部銈二郎先生が執筆されたエッセイを読んでからでした。服部先生のエッセイには、地理学の応用に関する、刺激的な文が散りばめられておりました。昭和60(1985)年に入学すると、

全国から「地理好き」の仲間が多く集まり、大きな刺激を受けました。当時、一部地理学科入学生の中で、沖縄出身者は私一人でした。そのためか、入学後には、いろいろと「沖縄」に関する質問を受けて、返事に窮した記憶があります。また、大学時代に印象に残っていることは、何と言っても、「巡検」が挙げられます。学生時代の巡検ノートをひもとくと、埼玉(秩父)、新潟(長野)、山梨、岐阜など、自然・人文の多くの巡検がありました。例えば、立正大学同窓生で千葉大学教員であった川崎逸郎先生(地形学担当)は、正月に帰省しない私に対して、「君は南国育ちなので、ぜひ八ヶ岳東麓の冬季巡検に参加するように」と言われ、生まれて初めて氷点下の山岳地域を体感する機会に恵まれました。当時の情熱ある先生方の巡検は、今でも、鮮明に記憶に残っております。

高校教師として

平成3(1991)年に大学院修士課程を修了後、私は郷里の高校教員採用試験に合格して、教職の道を志すことになりました。1年間の補充教員を経て、正式に県立高校教諭として採用されました。その後、宮古島、私立女子校での人事交流による異動など、水産・商業高校を



濟州島でのミカン栽培農家へのヒアリング調査(2001年9月)、右端が私(崎浜)

含む、タイプの異なる5高校で仕事を

する機会がありました。とりわけ、どの学校でも「地理」と「現代社会」を担当する機会が多くありました。そこで、時間をみつければ離島を含む、いろいろな場所を「歩く」よう心がけて、現地の景観写真や地図資料などの教材化に努めました。その成果の一部を、県教育委員会指定の研究授業や沖縄地理学会の大会などで、報告しておりました。

クラス担任の経験として、不登校・校内暴力、家庭の問題など、教育現場でのきびしい現実と直面する場面も多々ありました。そのたびに、生徒の自宅や地域を何度も往復し、父母の皆さんと膝をつき合わせて話し合ったことは、教育の本質を学ぶ上で、貴重な体験となりました。

また生徒との「ふれあい」という意味では、部活動での体験は楽しい思い出があります。

高校・大学時代と、陸上競技部に所属していたこともあり、赴任先では陸上部や駅伝部の顧問を任されることが多くなりました。競技結果もさることながら、指導した生徒達が記録を伸ばし、成長していく姿を見ると、大きな励みになりました。最後の赴任校では、女子駅伝部のスタッフとして全国高校駅伝大会に参加できたことは、一生の思い出になりました。

研究者として

平成12(2000)年には、県立高校教員を辞し、縁あって、沖縄国際大学南島文化研究所専任所員に採用されました。

この研究所では、琉球列島を中心に、文化的に関係の深い周辺地域(中国福建省・韓国)との学際的・総合的研究を行ってまいりました。着任後の私の大きな仕事は、八重山諸島、韓国・濟州島での総合調査の企画と調整でした。とくに研究所内での異分野間の調整は、研究方法の違いを含めて、その難しさを痛感しました。

しかし、濟州島の総合調査では、1980年代に立正大学地理学教室が手がけた「濟州島の総合研究」の成果と、立正大学教授であった榎田一二先



濟州島でのハウスミカン栽培農家へのヒアリング調査(2001年9月)、左端が私(崎浜)、中央後方は、立正地理OBの小川謙沖国際大学教授

在校生へのメッセージ

発展途上の私が言うのも何ですが、学生時代には、情熱を注ぐことができ「何か」を見つけたことが重要かと思えます。そのためには、人との出会いを大切にしてください。

また私自身、沖縄での生活の中で、立正大学の礎を築いた石橋湛山先生の論考を読むと、その慧眼に圧倒されます。とくに日本社会の矛盾を突いた鋭い視点には、理論と現実を往來した人間の本质が凝縮されており、学生の方々に、ぜひ石橋湛山先生の書物にふれることをお奨めします。

生が戦前に調査された論考などを参考に、初めての海外での学術調査を終了することができました。立正大学との縁を強く感じた調査研究でした。

謹賀新年 2014



祝 硬式野球部 主将 吉田裕太捕手 (法4) 千葉ロッテマリーンズに2位指名・入団

ホームカミングデー in 橘花祭が終了しました

全国の校友の皆様、あけましておめでとうございます。
立正大学校友会は昨年5周年を迎え、新たな一歩を踏み出しました。
立正大学同窓会も校友会のもとより一層の発展と同窓生の絆作りに取り組んで参ります。
2014年が全国でご活躍の校友の皆様にとって最良の年になりますよう、
ご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

立正大学同窓会

会長●野坂法雄 創立●昭和35年(1960)
会員数●約13万人
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
電話●03(3493)6673 <http://www.ris.ac.jp>



東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県支部の皆様



同窓会の各支部の方が販売を担当



ピーナツ積み取りの風景



同窓会の各支部の方が販売を担当



来場者へ地方物産展開催(ピーナツ積み取り)の案内中

同窓会地方物産展
(11号館4階で開催)

ホームカミングデー in 橘花祭

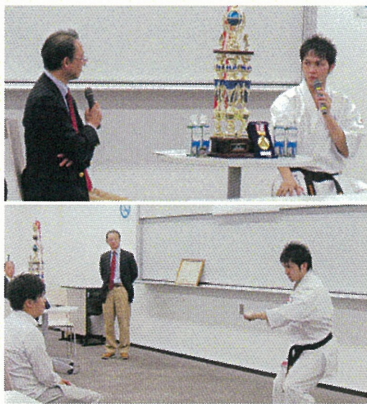


11月2日(土)午前11時から大崎キャンパス第5会議室にて平成25年度第2回代議員会を開催しました。

平成25年度
大学同窓会第2回代議員会を
開催しました



心理学部同窓会主催講演会
演題：助け合いの心理学
～人はなぜ助け合うのか～
講師：心理学部永井智准教授



経済学部同窓会主催ミニトークショー
井上雄太氏(経済学部卒業)・経済学部北原克宣教授
*井上さんは在学時代北原ゼミに在籍していました。



仏教学部同窓会主催講演会
演題：挑戦し続ける思い
～日本人初 8000m峰14座
完全登頂の軌跡～
講師：竹内洋岳氏(本学客員教授・仏教学部卒業・プロ登山家)



経済学部北原ゼミによる
おにぎりの販売
経済学部北原ゼミでは、学生が実際の農業体験で育てたお米をおにぎりにして販売いたしました。おにぎりは「駒よし」(丸島光雄氏・本学大学院経営学研究科修了・駒よし経営)さんにて作って頂きました。



山崎学長ご挨拶

高橋副学長による閉会の言葉

校友会主催記念懇親会
来場頂きました卒業生やご協力頂きました企業様、ご講演頂きました竹内洋岳氏にもご参加頂き、皆様の交流の場となりました。



カレーライスを無料で配りました
11月2日に来場頂きました方に向けて学生食堂(スエヒロ) 特製カレー300食をくばりました。

ホームカミングデー in 橘花祭
期間中に行われました立正大学同窓会主催地方物産展での売上金69,800円を在校生の奨学金として使用していただくよう石橋湛山記念基金へ寄付いたしました。
ご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

ホームカミングデーと同時に開催された『橘花祭』の様子です。



片沼美亜さんによるフラの実演
仏教学部2年片沼美亜さんとチームオハナの皆様による優雅なフラの実演を行っていただきました。



8月16日(金)に千葉県船橋市にある「ふなばしアンデルセン公園」にて、立正大学特別支援教育教師の会(通称「Bo二の会」)研修会を開催しました。
埼玉県の特別支援学校に勤務する教員9名、社会福祉学科の学生5名、堺正一教授、村上美奈子特任講師の計16名が参加し、交流を深めました。
公園内にある子ども美術館は、子どもたちが自由な発想で作る楽しさや喜びを味わえる体験型美術館で、「夢・アート展」では、船橋市内の小・中学校、特別支援学校に在籍する子どもたちの絵画作品を鑑賞しました。また、美術館に併設されている「木のアトリエ」「陶芸のアトリエ」「染のアトリエ」などでは、子どもたちが製作した様々な作品を見学することができました。
船橋市の姉妹都市であるデンマーク・オーデンセ市の協力で建てられた児童館では、童話作家H.C.アンデルセンの部屋を再現したギャラリーや、童話の上映、絵本の閲覧コーナーなどがあり、童心に帰ってアンデルセンの世界を楽しむことができました。

また、8月3日(土)には、「Bo二の会・在校生との懇話会」が開かれ、卒業生2名と、社会福祉学科3、4年生25名が参加し、特別支援教育の現状と課題についてお話があり、今年4月から特別支援学校に勤務し始めた卒業生の話に、在校生は真剣に耳を傾けていました。教員採用試験の体験談もあり、教職を希望する学生の相談や助言に協力することができました。

立正大学特別支援教育教師の会 (通称Bo二の会)研修会を開催

立正大学同窓会則

平成25年6月29日に開催されました平成25年度立正大学同窓会定期総会において、『立正大学同窓会則』の改正が承認されました。

立正大学同窓会則

- 第1章 総則
第1条 本会は「立正大学同窓会」と称し、本部を東京都品川区大崎4-2-16立正大学内に置く。
第2条 本会は立正大学（以下母校という）の卒業生ならびにこれに準ずる者、および母校の現・旧教職員をもって組織する。
第3条 本会は建学の精神に基づき、会員相互の親睦扶助ならびに団結と向上を図り、母校の教育活動の発展に寄与し、文化振興に貢献することを目的とする。
第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1 会報の刊行、会員データの管理ならびに母校の教育・学生活動への協力および援助
2 講演会等の開催
3 会員の学術研究に対する助成
4 会員の福利厚生等の推進ならびに庶務支部の振興ならびに支部組織の活性化を図り地域社会の発展に寄与する事業
5 立正大学校友会参加ならびに相互協働連携
6 その他本会の目的達成に必要な事業

立正大学郵政会
会長●市川幹 創立●昭和34年(1959)
登録会員数●5,800人
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
電話●03(3493)6673

立正大学郵政会東北総会を開催しました

東北6県の立正大学郵政会卒業生(544名)で構成される、立正大学郵政会東北総会を、平成25年10月26日、宮城県白石市、小原温泉「かつらや」で開催しました。

この会は、立正大学郵政会の伝統を卒業生として、高い誇りを持ち、失うことなく継続して後世に伝えるべく、約30年前から、2年毎に東北各県持ち回りで開催し、今回は、宮城県で開催され、30名を超える出席者となりました。

市川郵政会長挨拶
市川郵政会長挨拶
市川郵政会長挨拶

総会の議事では、浅野仙台南郵便局長（S54年卒）の司会により、来賓としてお招きした、市川郵政会長から、ご挨拶と全国各地の総会開催状況等の報告があり、引き続き星郵政会副会長・東北郵政会長から、郵政会再結成に至る経緯、平成25年度事業計画、予算、役員、地方代表者について詳細な説明がありました。

懇親会では、地元、亀山洋一元東北地方会副会長（S39年卒）から、歓迎の挨拶と激励を戴き今後の活躍を誓い合いました。

我が立正大学郵政会は、昭和34年に創立し、6800名の修了生と、5400名の郵政社員を輩出してきた日本の私立大学の中でも、特異で高い実績を積み上げていく組織である。
今回の東北総会は、新たな「立正大学郵政会」の再出発と我々の後に続く、有能な郵政社員を継続的に輩出し続けることにより、国家、国民の財産である、郵政事業の発展に大きく寄与するための意義ある総会である。このことを心に深く刻み、発展させていくことを誓い、大会宣言とする。



平成26年度立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会定期総会のご案内
平成26年度の立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会定期総会は、熊谷キャンパスにて平成26年6月下旬の日程での開催を予定しております。

ホームページならびに立正大学校友会報4月号にてご案内申し上げます。
新しく変わりました熊谷キャンパスを見て、学生時代を振り返る懐かしいお時間を皆様と共有して頂きたく、多くの方のご参加をお待ちしております。





謹賀新年
2014

祝 硬式野球部 吉田裕太捕手（法学部） 千葉ロッテマリーンズ 2位指名・入団

平成 25 年度 立正大学父兄懇談会の全日程を終了しました

学生還元の一環としてテントを寄贈しました

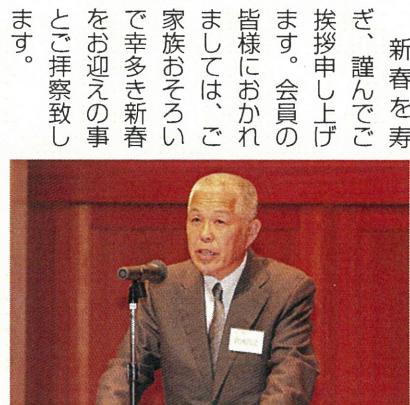
立正大学橘会

会長●岩淵昌之 創立●昭和39年(1964)
登録会員数●約11,000名
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
電話●03(3493)6673

立正大学(大学院含)在校生のご父母もしくは保証人
の皆様を会員とする団体です。

新年のご挨拶

立正大学橘会会長 岩淵昌之



新年を寿
ぎ、謹んでご
挨拶申し上げます。会員の
皆様におかれ
ましては、ご
家族おそろい
で幸多き新春
をお迎えの事
とご拝察致し
ます。

昨年は、全国各地における、今まで
に例をみない天災、竜巻・台風等の災
害が有り、未だ多くの人々がその復興
に苦勞しておられます。その方々が一
日も早く元の生活に戻り、平常な日常
生活を送られる事を願い、心よりお見
舞い申し上げます。

さて、橘父兄会は、昨年4月より校
友会の正式な構成団体として参加して
まいりましたが、父兄会便りに広告致
しました様に「立正大学橘父兄会」の
名称が時代にそぐわないという意見が
皆様より提案されておりました事を受
けて、アンケート調査を致しました所、
「立正大学橘会」と改称する事で
意見が一致しましたので、今後は「橘
会」として活動して参ります。

立正大学は「真実を求め、正義を尊
び、和平を願ひ、人類に尽くそう」と
いう立正精神に基づく教育に積極的に
取り組んでいます。今後は「橘会」も
共に校友会の活性化を図りつつ、立正
大学の発展を願ひ会員の皆様のお役に
立てる活動を行って参りますので、昨
年同様、皆様のご理解とご協力をお願
い致します。

次に、私共橘会の活動についてお伝
え致したいと思います。橘会は、父母
と大学の教職員の方々とで協力して、
子供達が有意義な学生生活を過ごせる

様に支援する事を目的として活動して
おります。この目的を達成する為に、
大学や学生生活の情報をご父母の皆様
にご提供して、皆様方からのご要望を
大学側へ伝達しております。また、父
母同志の情報交換や交流の場として全
国各地で父兄懇談会を開催しておりま
す。昨年も、5月18日に総会を開き、
懇談会を東京、熊谷会場を含め、14会
場に決め、6月の初めの沖縄を皮切り
に開催致しました。この父兄懇談会は、
会員の皆様と大学との連携を図る上で
最も重点を置いている事業となっております。
その他としては、父母の為の「就
職講座」などを行っております。さらに、
橘会の活動を会員の皆様に迅速にお伝
えするという目的で立正大学校友会報
「たちばな」を、全国の会員の皆様に
発送しております。日蓮聖人のお言葉
にある「子にすぎたる宝なし、子にす
ぎたる財なし」という教えに従い、大
切な子供達を教え導く為に、先ず親で
ある私達が人生の規範となりたいもの
です。人は一人では生きられない。多
くの人人々に支えられて生きています。
とかく私達は自分の力で生きていた
る様に錯覚しがちですが、どんなに偉
大な人でも自分一人では生きられない
のです。人と人との結びつき、支え合
いや助け合いの大切さを再確認して、
社会不安が増幅し、政治、経済の先行
きが不透明なこの時代を何とか乗り越
えて行きたいものです。

橘会は今後も子供達が希望する形で
社会へ巣立って行ける様に父母の立場
から、その手助けをし、できる限りの
支援をして行きたいと考えておりま
す。その為に、会員の皆様の様々な形
での積極的なご参加ご協力をお願いし
まして、私からの新年の挨拶に代えさ
せて頂きます。

学生還元の一環として テントを寄贈

学生還元の一環として、テント40台

を大崎・熊谷の両キャンパスへ寄贈しまし
た。テントは、学園祭
の模擬店等で使用され
ました。

父兄懇談会東京会場を 開催しました

11月10日(日)に今年度最後となる
父兄懇談会を大崎キャンパスにて開催
しました。これにより平成25年度の父
兄懇談会の全日程を終了致しました。
ご協力頂きました皆様、ご参加頂きま
したご父母の方々に感謝申し上げます。



岡崎洋先生による「父母のための就職講座」



各学部説明会・個人面談



個人面談風景



個人面談風景



宇都宮会場

日時：平成25年7月21日(日)
会場：チサンホテル宇都宮
参加数：29名

父兄懇談会に参加して

荻原弘夫(栃木県)
酷暑となったさ
る7月21日、チサ
ンホテル宇都宮を
会場に栃木県、福
島県、茨城県、群
馬県合同の立正大学父兄懇談会が催さ
れました。

小学校、中学校、高等学校でも保護
者会はありませんが、大学でも実施さ
れていることに驚きましたが、息子が
日頃お世話になっている大学の様子や
成績、生活ぶりを知る良い機会である
と思い、家内と二人で参加しました。

開会に続き、柏戸経営学部長による
講演、内容の濃い講演を拝聴させてい
ただき感謝申し上げます。昼食懇談会
では先生方や父兄会役員の皆様と円卓
を共にし、同じ世代の子供を持つ保護
者の皆様と情報交換し、美味しい食事
も相まって大変有意義な時間を過ごす
ことが出来ました。



荻原弘夫(栃木県)

議論し、様々な体験をする、それら
を経て形成される人格は、社会に出た後
の人生においても決してマイナスにな
りません。大学側のサポートも実に
しっかりとしていると感じました。

結びに、我が子が立正大学で学んで
いる姿を見ることは難しいですが、良
き先生方、職員方、そして環境に恵ま
れていることに感謝いたします。

この父兄懇談会開催にあたり準備に
あたられた関係者の皆様のご尽力に重
ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

父兄懇談会に参加して

佐藤功(栃木県)
息子は経営学部
1年生、本人が希
望した大学へ無事
入学することがで
きて一安心しまし
た。大学や学部も本人に決めさせる方
針で、本人は将来の事を踏まえ色々な
情報をもとに考え決めたようです。

そんな私が今回参加させていただく
きっかけとなったのは、過保護かなと
思う気持ちもあつたのですが、入学2
か月たった頃に聞いた「毎日が楽しく
て…」の息子の一言で自分も大学のこ
とが知りたくなったからです。

当日は大学の現況報告から始まり、
柏戸経営学部長の「日本の企業・産業
の盛衰」の講演を聞き、日本企業の歴
史と企業寿命、企業における経営者の
方向決断の重要性、企業の歴史をもと
に現在の企業のあるべき姿を考えるこ
との重要性など我々企業に関係してい
るものとして考えさせられる内容でし
た。また、先生が最後にお話になつ
た「子供たちが就職先を決める事に対
して親の偏見で企業を見るのではなく
子供たちの意見を尊重すべき、仮に無
名な企業でも可能性のある今の時代、
花咲くことがあります」とおっしゃい
ました。先生方の学生に対する温かい



佐藤功(栃木県)

気持ち強く感じました。

吉岡熊谷キャリアサポート課長の「父母のための就職講座」を聞いて、現状の就職率の説明や就職活動のスケジュールが変わること、エントリーについても現状ではウェブ等の電子インターフェースでの登録が主流になっていること、就職活動への子供に対するメンタル的なアドバイス等、日頃からニュース等で耳にはしていましたが詳しいお話を聞いてとても勉強になりました。

個人面接では親元を離れ一人で生活している息子に対する不安に対し親身にお話を聞いて下さった柏戸先生に本当に感謝しております。父兄懇談会に参加して、その場でなければ分からない事を多く得ることができました。最後となりますが、橋父兄会役員の方々、先生方、お忙しい中この様な会を開催していただき大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

大阪会場

日時：平成25年9月1日(日)

会場：大阪第一ホテル

参加数：13名

あっと言う間の一年

新井義雄(大阪府)



今年で二度目の父兄懇談会に参加させて頂きました。前回懇談会で、面接させて頂いた

佐々木先生が今回も大阪会場にお見えでした。私は会場に到着するなり挨拶。「一年が経つのは早いですね」と前回の懇談会を振り返りながらお話をさせて頂きました。

橋父兄会より評議員の要請がありましたので、私は少しでもお役にたれたいと思い即座にお受けいたしました。大阪と離れた場所でお手伝い出来るか不安ですが一生懸命務めさせて頂

きます。宜しくお願致します。

今年の父兄懇談会は台風(温帯低気圧)の影響で大雨・雷が続いており足元が悪い天候でした。懇談会には石井副学長をはじめ教職員・役員の方、父母13名の参加で会は始まりました。柳下副学長から開始の挨拶。石井副学長による講演「地雷ではなく花をください」を聴かずにはいられません。少し涙ぐみながらお聞きしておりました。昼食懇談会では、先生方父母が円卓をかこみ子供達の話で和やかな雰囲気の中での食事をしました。やはり参加された父母の皆様は子供の話になると話題が付きません。食事が終わると、「父母のための就職講座」があり、みなさん、真剣なまなざしで、吉岡先生(熊谷キャリアサポート課長)のお話を聞きました。我が子は現在2年生です。就職活動が今より開始が遅くなること、子供達は早期の準備、企業の選択、就職への心構え。親としてサポートして行きたいと思えます。最後に個人面接、成績表を基に履修状況、取得単位や子供自身の事などお話を聞き出しました。

今回、都合がつかず参加出来なかった父母の皆様、この様な内容で懇談会が開かれています。是非来年は出席されませんか。

最後に準備に当たられた関係者の皆様の御尽力を心より感謝いたしますと共に、立正大学ならびに橋会のみますますの発展を祈念いたします。本日はありがとうございました。

父兄懇談会に参加して
北隆一(和歌山県)

早いもので息子が立正大学3年生になりました。思えば、東日本大震災の影響で入学式が中止になり、授業開始も1ヵ月余り遅れ、息子は息子で立正大学への入学

を迷っていたことが昨日のことのように思い出されます。入学式がなかったこともあり、大学との懇談会には一度参加してみたいと思っていました。今回、大学3年生になり、そろそろ息子も将来のことを決める時期だと思

い、参加することにしました。吉岡熊谷キャリアサポート課長から、今の大学生の就職活動の状況を詳しく聞くことができ、私が学生だった頃と全然違うことが理解できました。色々な情報があふれる中、迷っている息子を最後まで温かく見守って欲しいと思うと同時に、遠方であればある程、息子とのコミュニケーションが大切なのだと思ふようになりました。

就職するにせよ、大学院に進学するにせよ、最後まで諦めずに自分が幸福になれる自分の進むべき道に一歩でも踏み出してくれればと思います。今回の懇談会に参加して、立正大学にはそのためのサポート体制があるものと感じました。最後になりましたが、昼食懇談会では他のご父母の皆様、先生方の貴重な体験談等を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。橋会役員の皆様本当にありがとうございました。

父兄懇談会に参加して
草野正枝(福島県)

残暑が少しずつおさまり、秋の気配が感じられる9月7日に仙台市のホテルを会場に父兄懇談会が開催されました。

仙台会場

日時：平成25年9月7日(土)

会場：ホテルJALシティ仙台

参加数：17名

父兄懇談会に参加して

全体会では、岩淵橋会会長より挨拶があり、続けて舟橋法学部長のお話があり、大学を取りまく社会環境が時代と共に変化の中で、学生や保護者の大

学選びにも「安・近・短」の思考が顕著となり、それが入学後のミスマツチ、退学の要因となっているという話

が印象に残りました。その後民法に関する講演があり、それは立正大学の建学の精神「真実・正義・平和」に結びつくものだと感じました。自分を取りまく物事の背後にある原理や原則を理解し、ブレない価値観と確固とした判断基準を確立した上で、自身の生活力と社会に貢献出来る力が備わるといふことです。この講演を聴いて次のことを感じました。

道徳観をもった専門家として社会に貢献出来るすばらしさ。そのような社会人になるため学生は大学では何を、何の為に学ぶのかということを見聞自答しながら学問に励むことが大切であるということ。

昼食懇談会では、皆初対面の方々でしたが初めて一人暮らしをする我が子

の話や震災後の生活等、話を共有することが出来ました。その後、下垣キャリアサポートセンター長の「父母のための就職講座」があり、立正大学の4年間の取り組みについて資料をもとに詳しく話を聞くことが出来ました。その後、懇切丁寧な先生方との個人面接による対話があり、会が終了しました。

立正大学開校140周年にふさわしいとて有意義な会となりました。

父兄懇談会に参加して
小條かおり(宮城県)

東日本大震災から2年が経とうとしていた9月7日、被災地東北の父兄懇談会が仙台にて行われました。東京からいらした先生方や役員の方々の御

見、復興も進み落ち着いた街の印象があった事と思います。しかし、現状は厳しく、特に心に負った傷は今も癒されてはおりません。私の娘も震災を経験し、大学進学を諦めるか悩みましたが、夢と希望に向かって前に進む

事を決意し、今では元気に立正大学に通っております。

先生方のお話では、私たちが大学生であったバブル全盛期とは違う今の時代の大学生の置かれている立場が易しくないとの事でした。アベノミクスで経済が好転したと言われますが、雇用や格差等の問題が解決されたわけでは

ありません。私たちの子供である今の大学生はこの厳しい環境の中で、どういうポリシーのもとで将来どのよう

にすべきか。日々学習し自分と戦っているとの事でした。法学部長の舟橋先生には、民法の授業を実際に講義していただき、目の前

にある問題や近い将来起き得る問題をかみ砕いてお話しいただきました。子供たちがこれからの日本を支えていくにはとても難しい世の中ですが、

社会の背後にある真実をしっかりと学び、深く追究して欲しいと願うしかありません。

キャリアサポートセンター長の下垣先生には、就職活動中の子供に対して親がすべき事をお話しいただきました。焦らずじっくりと精神面を支えてあげようと感じました。

懇親会後の個人面接では大学の様子を伺うことが出来、とても安心しました。先生方と直接お話しさせて頂く機会がありませんので、非常に貴重な時間でした。とても有意義な一日をありがとうございました。

父兄懇談会に参加して
若國佳子(北海道)

10月6日秋晴れの中、札幌会場での父兄懇談会が行われました。

午前中の全体会では、職員・役員の方々の紹介の後、仲山社会福祉学部

長による講演があり、「知的発達における身体と運動の役割」という事で有名なサッカー選手を例に、イラストを用いた例題で私達も参加でき、大変分かり易い内容で、久しぶりにアカデミックな雰囲気を感じることが出来た。

その後の昼食懇談会では少し緊張もほぐれ同じテーブルの方々とも子供が同じ立正大学生という事で色々なお話をすることが出来ました。午後からは中

村大崎キャリアサポート課長による「父母のための就職講座」があり、今時の就職活動スケジュール、親の心構え、大学のサポート体制などについてお話がありました。その後個人面談があり、テレビや新聞で見聞きして「就職活動」というものに不安があった私

でしたが中村先生の丁寧で分かり易いお話に、不安も解消され、頼りになるキャリアサポートセンターの存在に安心しました。

今回初めての参加でしたが、大変有意義で楽しい時間でした。このような機会を作ってくれた関係各位の方々には本当に感謝いたします。次回もまた参加させて頂きたいと思いま

す。



宇都宮会場 柏戸経営学部長講演



仙台会場 舟橋法学部長講演



大阪会場 石井副学長講演



札幌会場 仲山社会福祉学部長講演

校友の広場 NEWS&TOPICS

イベント情報

●同窓会支部総会開催案内

【宮崎県支部総会】

◆支部長：長友泰範氏（S44文地卒）◆2月22日（土）
宮崎市：ニューウェルシティ宮崎◆総会 事務局長：若松光郎氏 ☎0985（51）0446
◆詳細や他の支部・学部同窓会行事は、決定次第校友会・大学同窓会ホームページと校友会報でご案内いたします。

開催レポート

●同窓会支部総会開催報告

【北海道支部】



◆支部長：釈英照氏（S42
仏宗卒）◆8月24日（土）
札幌市：札幌第一ホテル◆講
演会：「団十郎と馬の足」（講
談）一龍斎貞山氏（文学部国文学科卒）◆参加者：13名

【熊本県支部】



◆支部長：山中進氏（S47博地卒）◆8月24日（土）熊
本市：ホテルニューオオタニ
熊本◆講演会：「有難いご縁
なぞし」野坂法雄大学同窓会
長◆参加者：24名

【青森県支部】



◆支部長：金田一耕作氏（S55
短社卒）◆8月25日（日）
八戸市：八戸パークホテル◆
参加者：9名

【広島県支部】



◆支部長：室積幸生氏（S
49文地卒）◆8月25日（日）
福山市：福山ニューキャッス
ルホテル◆講演会：「ふるさ
とは遠きにありて思うもの、
近きにありて感じるもの」大
目典正氏（経済学部卒）◆参加者：14名

【岐阜県支部】



◆支部長：森郷行氏（S38
経済卒）◆9月7日（土）岐
阜市：岐阜ワシントンホテル
プラザ銀座八丁◆講演会：「我
が第二の人生の過ごし方」森郷行氏（経済学部卒・岐阜県
支部長）◆参加者：10名

【富山県支部】



◆支部長：山本充彦氏（S51
仏宗卒）◆9月8日（日）富
山市：富山県民会館◆講演会
：「市電開通富山市の路面電
車100周年」坂森幹浩氏（富山市立郷土博物館主幹学芸
員）◆参加者：16名

【島根県支部】



◆支部長：原田明成氏（S
58経営卒）◆9月14日（土）
松江市：松江ニューアーバン
ホテル◆講演会：湯浅啓史氏
（出雲市議会議員）の基調講演◆参加者：18名

【新潟県支部】



◆支部長：水澤克夫氏（S
42経済卒）◆9月21日（土）
新発田市：ホテル摩周◆講演
会：「城の山古墳とその周辺」
水澤幸一氏（大学院修士課程史学科修・胎内市教育委員会
文化財係長）◆参加者：27名

【山形県支部】



◆支部長：阿部考伸氏（S
46文地卒）◆9月28日（土）
山形市：山形国際ホテル◆講
演会：「未来を見据えて～幸
いのありかを探る旅～」渡部泰山氏（経済学部卒・山形大
学大学院教育実践研究科准教授）◆参加者：21名◆橋会
父兄懇談会と合同開催◆山崎和浩学長、岩淵昌之橋会会長
出席

【神奈川県支部】

◆支部長：小櫃健一氏（S31修社修）◆10月20日（日）
鎌倉散策

【栃木県支部】

◆支部長：大川清孝氏（S42仏宗）◆11月2日（土）大
崎キャンパス第5会議室◆山崎和浩学長出席◆ホームカミ
ングデーIN橋花祭同時開催◆参加者：8名

【長野県支部】

◆支部長：中島正韶氏（S
39文史卒）◆11月16日（土）
長野市：ウエストプラザ◆講
演会：「給解きの世界」竹澤
繁子氏（西光寺住職の奥様）◆参加者：36名

【愛知県支部】

◆支部長：澤木利氏氏（S
50経済卒）◆11月16日（土）
名古屋市：名鉄ニューグラン
ド◆参加者：11名

【東京都支部】

◆支部長：神蔵義一氏（S
34仏宗卒）◆11月23日（祝
日）八王子市：京王プラザホ
テル八王子◆講演会：ロード
レース自転車有名な鳴嶋英雄氏（文学部卒業・鳴嶋フレ
ンド）◆参加者：25名

【愛媛県支部】

◆支部長：中臣泰高氏（S50仏宗卒）◆12月8日（日）
松山市：白魂

●同窓会学部総会報告

【地球環境科学部同窓会】

◆会長：高橋由直氏（H19地理卒）◆10月20日（日）
フィールドワーク：鈴木厚志地球環境科学部教授◆在校生
と一緒に、東京都心の出版・印刷・製本の現場を観察する。
◆11月9日（土）フィールドワーク：田村俊和地球環境
科学部教授◆東松山市民の森と岩殿観音周辺で開催

●第4回熊谷1期生地理学科同窓会開催

9月14日に第4回熊谷1期
生地理学科の同窓会が開催さ
れました。会の冒頭には、松
井地球環境科学部長から、大

学の近況をお聞きし、また私達が習った当時のなつかしい先生方の消息をお聞きすることができました。現在、ご連絡先がわかっている1期生の学友は80名ほどです。同窓会の通知が届かない方は、清原敬一氏（0428-31-1121）または、古川史典氏（080-3457-0243）までご連絡ください。

●卒業生の活動紹介

◆小山恵理さん（文学部卒業）

きりく・ハンドベルアンサンブル所属

10月9日に紀尾井ホールにて「きりく・ハンドベルアンサンブル～アメリカツアー凱旋コンサート～」と題して、イングリッシュ・ハンドベルによるコンサードが開催され、小山さんが出演されました。

◆斎藤博嗣さん（経営学部卒業）

10月20日（日）に日比谷公園で行われた「土と平和の祭典2013」で「移住&国民皆農のススめ」「自家採取した種の輪を広げよう！」と題したトークセッションに斎藤さんが一反百姓「じねん堂」として出演されました。

◆南貴子さん（心理学部卒業）

11月1日（金）～11月4日（月・祝）の間新宿シアターサンモールにて劇団浪漫狂第36回公演『ラストジャフル～最後の大芝居～』に南さんが出演されました。
劇団浪漫狂ホームページ
<http://romankyo.com/>

BOOK & WORK 卒業生書籍紹介

『緑の哲学 農業革命論～自然農法 一反百姓のすすめ～』

福岡正信著
斎藤博嗣氏（平成9年経営学部経営学科卒業）が編集協力・寄稿しました。



◆株式会社春秋社
◆お問合せ ☎03（3255）9611
◆定価：1,700円＋税
[斎藤博嗣氏紹介] 一反百姓「じねん堂」という屋号で福岡正信・自然農法を実践。2005年東京から茨城の農村へ移住し、農的ワーク・ライフ・バランス研究家（自然と仕事と生活の融合を提案）として活動されております。

『詩の降り注ぐ場所 COAL SACK [石炭袋] 76号』

石村柳三氏（昭和42年文学部史学科卒業）が作品を寄稿。



99ページ／『足の眼』の風景、282ページ／石橋湛山の絳草絵句に関する小考、310ページ／高橋郁男著「渚と修羅ー震災・原発・賢治」を読んで
◆株式会社コールサック社
◆お問合せ ☎03（5944）3258
◆定価：1,000円＋税

INFORMATION

2013年度校友会費B（卒業生・現元教職員等会費）のご案内

昨年度は校友会費B（3,000円）に約1,600件・480万円のご協力を賜りました。皆様のご協力に深く御礼申し上げます。ご協力頂きました会費は校友会奨学金、入学記念品、卒業記念品、課外活動助成金等の在校生支援事業および卒業生交流会費用や会報等発送に関する校友会運営費に充当させていただきます。7月にお送りしております専用振込用紙にてコンビニエンスストアまたはゆうちょ銀行よりお振込みください。皆さまのご協力とご支援をお願い申し上げます。



熊谷キャンパスアカデミックキューブ

校友会会員情報について

ご登録を頂いております。お名前・ご住所・電話番号・勤務先等にご変更および訂正がございましたら下記までご連絡下さい。

変更届の内容

◆氏名◆ご住所◆電話番号◆メールアドレス◆勤務先または職業◆校友会会員番号（校友会報・学園新聞宛名ラベルの番号）

お問い合わせ・お届け先

立正大学学長室校友課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
☎03（3493）6673 FAX:03（3493）9068
Eメール: alu@ris.ac.jp

お知らせください

卒業生の活動情報やクラブ・サークルOB/OG会開催、卒業生のお店紹介等卒業生の活動に関する情報がございましたら上記お問い合わせ先までご連絡下さい。

事務局移転のお知らせ

校友課・校友会室は、11月25日より大崎キャンパス内6号館2階から8号館2階（旧中高校舎）へ移転となりました。

